

vol.
63
2025
summer



Osaka Kyoiku
University
Public Information
Magazine

大阪教育大学広報誌

Ten You

天遊

Athlete's View !

卒業生CATCH!

ラボ訪問

**障がい学生修学
支援ルーム**

附属学校園ウォッチ

今号の表紙学生

TOPICS

特集
1

大阪教育大学独自の教職科目

ダイバーシティ教育科目

特集
2

大阪教育大学から世界へ

海外短期研修or交換留学

大阪教育大学独自の教職科目 ダイバーシティ教育科目

大阪教育大学が教員養成
フラッグシップ大学として展開している
独自の授業科目についてご紹介します！



教員養成フラッグシップ大学とは

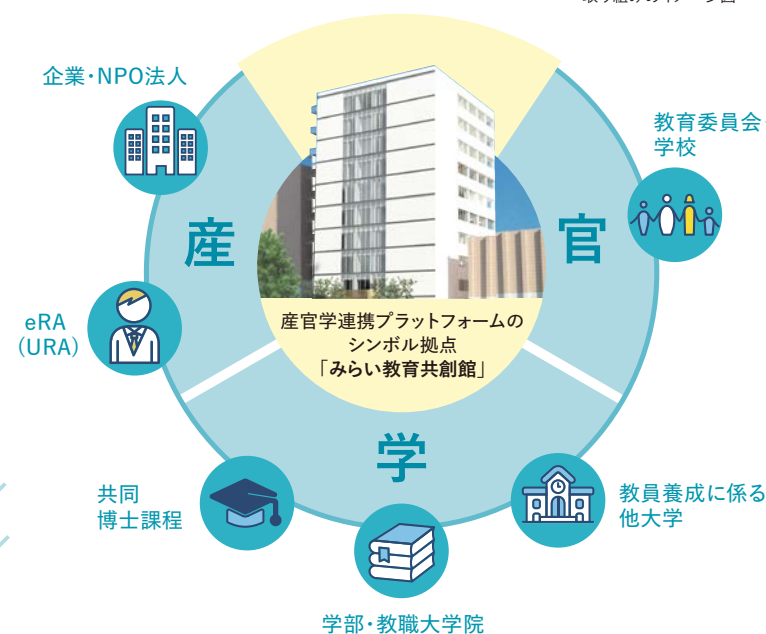
教員養成フラッグシップ大学とは、文部科学省が創設した制度で、「令和の日本型学校教育」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を改革していくためのけん引役としての役割を果たす大学のことで、教員養成フラッグシップ大学には、本学を含めて4大学が指定されています。

本学は、多様な主体と協働しながら、成果事例を日本全国に発信・浸透させることにより、大阪から日本の教育を変えていきます。



全国的な教員養成ネットワークの構築と 成果の展開

取り組みのイメージ図



解説動画は
こちら

独自の授業科目の 開設

教員養成フラッグシップ大学に指定されると、特例として法律で定められている教員免許取得に必要な科目の一部を、大学が新たに開設する科目に代えることができます。

ダイバーシティ教育



本学は日本の教育課題が縮図化している大阪にあることから、ダイバーシティ教育に力を入れています。そこで、フラッグシップ大学の特例科目としてダイバーシティ教育の基礎に関する4科目を新たに開設しました。これらの科目と特例4領域科目を通して、3つの力を身につけます。

ダイバーシティ教育に関する4科目

01 多様な子どもとインクルーシブ教育

授業の概要

インクルーシブ教育の理念と関係する制度的事項の基礎を学び、多様な子どもたちが在籍する通常の学級におけるインクルーシブ教育の取り組みを理解します。

02 外国人の子どもとの理解と支援

授業の概要

国籍や日本語力の程度を問わず、外国にルーツのある子どもやその保護者を取り巻く教育課題を取り上げ、指導や支援の政策動向や事例、指導関係者の役割や専門性、学校の役割を学びます。

03 現代社会と子どもの権利

授業の概要

子どもの権利の基本的な概念とは何か、また、どのようなものがありどのように守られてきたのかを学ぶとともに、現代社会における子どもの権利がどのように捉えられてきたのかをふまえて概観を理解します。

04 ダイバーシティと教育

授業の概要

現代社会におけるダイバーシティの基本的理念を学びます。また、ダイバーシティ教育がめざす、子どもの多様性および、社会的包摂(社会的共生)を重視する学校教育のあり方やその価値について学びます。

特例4領域科目群

教科横断と探究学習Ⅰ

教育データの活用Ⅰ

ファシリテーターとしての
教員Ⅰ

学習者中心の
授業デザインⅠ

教科横断と探究学習Ⅱ

教育データの活用Ⅱ

ファシリテーターとしての
教員Ⅱ

学習者中心の
授業デザインⅡ

身につける
3つの力

① 個々の子どもの能力を
最大化する力

② 社会と個人の
ニーズに応える力

③ 重層的・協働的な
省察力

授業の様子

「ダイバーシティと教育」の第4回の授業の様子です。

第1回～第3回はオンデマンド形式で、ダイバーシティとは何か、人々の「ちがひ」の尊重に関する関連法について学びました。

第4回は対面でグループワークを中心に、これまでの授業を振り返りながら、周りとは一致した内容、一致しなかった内容、ユニークだと思った内容をまとめることで、自身の理解を深めました。また、「ダイバーシティ教育を進める上で、教師に求められる意識や力量、言動とは？」というテーマで「どんな教師だったら多様性を大事にしてくれるか？」についてもグループワークを行いました。学生からは「知識や経験が多い人」、「いつでも誰にでも思いやりがある人」などの意見が出ました。



海外短期研修

大阪教育大学は学生の目的に応じた海外体験を用意しています。

or 交換留学



CHECK!

詳細はグローバルセンターの
ウェブページを
確認してください！

Short-term study abroad program

海外短期研修

海外短期研修とは、夏休みや春休みを利用して1～5週間ほど現地に滞在し、語学や異文化を学ぶプログラムです。海外の協定校で、語学研修・文化研修・観察実習を行います。

海外短期研修の概要

研修時期	前期（夏季）プログラム：8月～9月、後期（春季）プログラム：2月～3月
主な研修先	カナダ、アメリカ、オーストラリア、フランス、タイ、シンガポール、台湾 等 ※年によって研修先は異なります
期 間	1～5週間程度
内 容	語学研修、文化研修、観察実習
金 額	30万円～120万円程度（航空券・宿泊費含む）
対 象 者	学部・大学院・専攻科に所属する正規学生（留学生含む）
語学力・成績要件	一部の研修を除き不問
スケジュール ※前期（夏季）プログラムの場合	4月上旬 …… 募集説明会 4月 …… 申込み（一部の後期プログラムも募集開始） 5月中旬 …… 参加者決定 6月～7月 …… 諸手続き （オリエンテーション・海外留学危機管理セミナーへの参加、 危機管理サポート・海外旅行保険・奨学金の申請等）
スケジュール ※後期（春季）プログラムの場合	10月上旬 …… 募集説明会 10月 …… 申込み 11月中旬 …… 参加者決定 11月～1月 …… 諸手続き （オリエンテーション・海外留学危機管理セミナーへの参加、 危機管理サポート・海外旅行保険・奨学金の申請等）



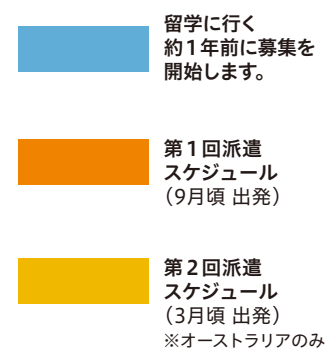

Exchange program

交換留学

交換留学とは、海外の協定校との学生交流協定に基づき、学生が相互に留学する制度です。
留学期間は半年（1学期）または1年（2学期）で、大学のサポートのもと中・長期留学に挑戦できる

プログラムです。

募集～出発までの スケジュール



留学前年度												留学開始年度												次年度				
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月		
交換留学プレ説明会						募集期間		学内選考				第1回派遣のための手続き					✈️ 留学期間（半年または1年間）											
						交換留学募集説明会		書類・面接選考 推薦者決定				協定校への推薦 ➡ 協定校への申請 ➡ 協定校での選考 ➡ 入学許可証受領 ➡ ☆留学決定					第2回派遣のための手続き					✈️ 留学期間 （半年または1年間）						

※スケジュールは変更する場合があります

Athlete's View

身体などに装着し、臨場感あふれる映像を記録できるカメラを使って、アスリート視点の動画を撮影しました。



AMERICAN FOOTBALL

松本 昇大

まつもと しょうだい

教育協働学科
理数情報専攻 自然科学コース 4回生

受け継がれる技術と 進化する戦術

昨年度、大阪教育大学アメリカンフットボール部は念願の2部リーグへ昇格を果たしました。アメフト部は人数が少ないものの、OBの方々が積極的に指導に来てくださる、伝統と経験を生かした実力派チームです。特に、地域のアメフトチームとの合同練習を行うことで、切磋琢磨しながら日々成長しています。

アメフト部の特徴は、選手一人ひとりが持つフィジカルの強さと、関西屈指のアメフトIQにあります。少人数ながらも、試合では相手チームを頭脳で圧倒し、戦術面で優位性を発揮しています。スタッフ陣は選手の安全を最優先に、怪我の予防に力を入れています。また相手チームの試合などを見て情報収集するスカウティングを行い、特徴を徹底的に分析することで、戦術面でも一歩先を行く準備をしています。

このように、フィジカルに加え技術と戦術を駆使して、今後のさらなる飛躍をめざし日々練習に励んでいます。アメフトを通じて、仲間と共に成長し、挑戦し続ける姿勢を大切にしています。

DATA：アメリカンフットボール部

部員数：44人（2025年6月現在）

戦績：2024関西学生アメリカンフットボールリーグ(3部)
Bブロック 2位
3部順位決定戦 2位通過
2部3部リーグ入れ替え戦 勝利(2部昇格)



卒業生 CATCH!



スウェーデンでの
学びを
日本の教室へ

大阪教育大学附属平野中学校 教諭

きつ かわ よし ひさ
吉川 喜久

学校教育教員養成課程 技術教育専攻 2020年卒
大学院連合教職実践研究科 高度教職開発専攻
教育実践力コース 2023年卒

生徒の笑顔のために

吉川喜久さんは、大阪教育大学附属平野中学校で技術科を担当しています。仕事のやりがいを聞くと、「やっぱり授業が一番面白いですね。生徒たちの作品づくりのサポートは、仕事であると同時に自分の好きなことの延長線上という感覚が強いです。ものづくりを通して教育に携われることが、自分にすごく合っています」と笑顔で語ります。授業以外の業務についても、「先日の修学旅行では、生徒たちが実行委員やしおり係など、それぞれ役割をもち主体的に取り組んでいました。行事を通して、生徒一人ひとりが協働し、課題を乗り越えようとする姿から、私も教師としてどんなサポートができるかを考えながら関わっていました」と話し、熱意を持って仕事に向き合っている様子が伝わります。

やりたいことをすべてやった学生時代

大教大を選んだ理由は、「同じ志を持つ学生が日本全国から集まり、将来教師になったときにも生かせる交友関係が築けることと、さまざま

まな教員免許を取得できる環境があり、努力次第で幅広く学べることに魅力を感じたからです」と言う吉川さん。入学してからは「大学生活でやれることは全部やりきる」をモットーに、幼稚園から高校まで全校園種の教員免許を取得したり、メンバーが激減していた大学祭準備会に所属し、2年連続で委員長を務め、立て直しの励みだりと、まさに全力で駆け抜けます。

四足のわらじへ、留学を決意

中でも、自身を大きく成長させたのが留学でした。「4回生になる頃、日本の学校教育について少しずつ理解が深まってきた一方で、世界の教育を見ることで日本の技術教育をより客観視できるのではないかと思い始めました。教員採用試験、卒業研究、小学校での実習が控えていて、決して容易ではない挑戦でしたが、先生や先輩に背中を押してもらって、トビタテ留学 JAPAN への応募と留学を決意しました」。プログラミング教育に関して日本と方針が似ていることから北欧に焦点を定め、必死に英語を勉強し、コロナ禍の延期を経てスウェーデンの大学に留学しました。

教育に対する視点の転換

留学を通じて、教育を他分野の視点から捉える力が身についたと言います。「実際に留学してみると、海外の教育を知るにはその国の歴史や社会制度の背景を踏まえることが大切だと強く感じました。現地での学びを通じて、自分の中に新しい価値観が芽生えたと感じています」。

そうした経験から、留学するか迷っている学生には、「少しでも興味があったら、ぜひ一歩踏み出してほしいです。現地に行くからこそ、気づけることや学べることがあると思います。語学力に不安があっても、『現地の方々と話してさまざまなことを知りたい』という好奇心をモチベーションに変えて、ぜひ挑戦してほしいです」と熱いエールを送ります。

スウェーデンの実践を日本へ

今後の目標について聞くと、まずは教員としての力を着実に身につけたいと語ります。「学校現場に出てみると課題や学ぶべきことが尽きないと感じます。中学教員としてはまだ3年目なので、授業力や生徒指導力を高めていけるように学び続けていきたいです」。そのうえで、留学経験を生かした実践にも取り組みたいと考えています。「スウェーデンでは現在、AIを新たな教科として導入するという世界でも先進的な取り組みが行われています。留学中にお世話になった先生方にインタビューさせていただきながら、附属平野中学校で研究を進めたいと考えています。将来的には、実践力とアカデミックな探究心を兼ね備えた教師をめざしたいです」。吉川さんの挑戦はまだ続きます。

吉川さんの学生時代の
記事はこちら



LAB

ラボ訪問

心理学を通して
子どもの
思考過程を探る

総合教育系
(初等教育部門)

柳岡 開地 准教授
KAICHI YANAOKA



Q 大学の先生になろうと思ったきっかけは？

A 学部生時代に発達に遅れのある子どもに関わるアルバイトをしていたのですが、例えば足し算を教えると、教えた問題はできるけれども、数字や問題の形式が変わるとまったく解けなくなる子どもが多くいました。これは氷山の一角で、他の事象でも教えたことが広がっていかないという課題を常に抱えていました。そこで、このことを卒業論文のテーマにしようと考え、指導教員に「どのように教えたら子どもがより理解できるようになりますか」と質問したところ、「そもそも子どもがどのように物事を学んでいるかが分からなければ、どう教えるべきかも分からないのではないですか」と言われ、教える側が抱える課題への見方が大きく変わりました。そこから、どう教えるかという実践だけではなく、子どもが学習したことをさまざまな場面に広げていく思考過程を研究したいと思ったのがきっかけでした。

Q 現在の研究内容は？

A 最近は、子どもが身につけた習慣が彼らの我慢強さに与える影響を研究しています。具体的には、「マシュマロテスト」という課題を用います。子どもの目の前にマシュマロを1つ用意し、「そのマシュマロをいますぐ1つ食べてもいいし、私が他の部屋からもう1つマシュマロを取ってくるまで待てれば2つ食べることができるよ」と言って、一人でどれだけ待てるかを観察するものです。これはアメリカでは有名な課題なのですが、日本ではほとんど取り組まれていませんでした。というのも、日本ではみんなで「いただきます」をしてから食事を始める習慣があるので、きっと我慢するだろうと直感的に思っていたからかもしれません。アメリカと比較検証してみると、実際に日本の子どもはアメリカの子どもに比べて、マシュマロを待つ時間が長



いことがわかりました。一方、プレゼントを報酬とした場合は、逆にアメリカの子どもの方が長く待っていました。今後は、この習慣に支えられた場面ごとの我慢強さが、どのように他の場面に広がっていくのかを研究しようと思っています。

Q どのような授業を担当していますか？

A 心理学の授業を主に担当しています。例えば「心理学研究法」という授業では、学生に実験や調査に参加してもらい、そのデータを分析し、結果をまとめるという一連の手続きを体験してもらいます。そして、その内容を心理学論文の型に当てはめて、論文を作成してもらいます。課題は大変かもしれませんが、論文の書き方を教えてもらう授業はあまりないので、卒業論文を書くときにこの授業を受けていて良かったなと思ってもらいたいです。

Q キャンパス内の好きな場所・雰囲気は？

A 天王寺キャンパスの食堂が好きで、お昼に大学にいるときはよくそこで

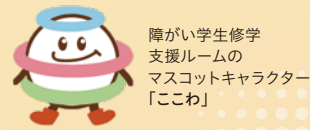
お弁当を買っています。雰囲気だと一番びっくりしたのは、教育現場と関わりをもって

Q ゼミの活動内容は？

A 現場と関わりをもっている学生が多いので、例えば子どもの寝方や行動の動機づけなど、現場での経験から着想を得た内容をテーマに卒業論文を進めていくことが多いです。研究を進める時は、学生同士の意見交換を重視しており、ゼミ中は学生間で議論したうえで教員がコメントするという形式をとっています。また、文献を読んでまとめるだけでなく、アンケートや実験などを通して実際にデータを取って、分析・考察をします。卒業後も研究してよかった!と思ってもらえるゼミ活動をめざしています。



互いの世界を知って、繋がる。



障がい学生修学支援ルーム

1 障がい学生修学支援ルームとは？

障がい学生修学支援ルームでは、障がいのある学生に向けて合理的配慮を行うための支援活動をしています。

活動内容

- PCテイク(パソコンでの授業の文字起こし)
- 授業資料のテキストデータ化(点字変換のため)
- 動画資料への字幕挿入

サポート学生
100人以上！

学部生・院生を問わず、研修を受ければ誰でも所属でき支援に携わることができます。



2 繋がる・広がる「多様な活動」

支援活動以外にも、学生主体のプロジェクトを行っています。障がいや支援について学び合い、学生同士の交流の場を作る「支援の輪を広げたいわ!」や、学内でサツマイモの栽培を行う「おいもプロジェクト」を実施しています。

また、他大学との交流も行っています。昨年度は「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク」主催の交流会に参加し、学内で実施している聴覚障がい学生支援についての発表で「奨励賞」を受賞しました。

これらの活動は、学内でも認められて「令和6年度学長特別表彰」を受賞しました。

3 学生代表から見た「障がい学生修学支援ルーム」

代表学生は「支援ルームは実家のような場所です」と言います。支援を受ける学生にとって安心できる場所であると同時に、サポート学生にとっても居心地の良い場所づくりを行っています。

今後はPCテイクの技術向上・引継ぎと、学内バリアフリーマップの作成・周知に取り組みます。



4 学生代表から一言

“人は、さまざまな特性がありますが、パズルのピースのようにつながっていくことで「ともに気持ちよく学び合う」ことができると考えています。より良い支援をめざして一緒に活動しましょう。”

大阪教育大学附属学校園

WATCH ウォッチ

「第13回附属学校園教員と大学教員との研究交流会」を開催

第13回附属学校園教員と大学教員との研究交流会を3月19日(水)にみらい教育共創館で開催し、学内や教育委員会、企業から約130名が参加しました。

本交流会は、附属学校園教員と大学教員が研究活動に関する情報を共有し、双方の交流を深めることを目的としており、今年はスペース発表並びにポスター発表を行い、さらには企業の展示ブースを設けました。

鈴木剛研究担当理事の開会挨拶の後、木村憲太郎特任講師がOZONE-EDUの説明を行い、その後附属学校園教員と大学教員が、計10



件の口頭発表をしました。また、計61件のポスター発表を行い、参加者は会場内を自由に行き来し、意見交換を通じて研究成果や取り組みについて理解を深めました。

参加者からは、「未来の教育についてアカデミックに交流できた点が良かったです」「企業展示ブースで商品の体験や説明も聞くことができました」といった感想が寄せられました。

「学校安全の日」附属池田小学校行事「祈りと誓いの集い」を実施

平成13年6月8日、大阪教育大学附属池田小学校に刃物を持った男が侵入し、8名の児童の命が奪われ、13名の児童と2名の教員が負傷しました。事件から24年を迎えた6月8日(日)、同校で追悼行事「祈りと誓いの集い」があり、児童、保護者、教職員ら約765名が参加しました。

本事業は、事件を風化させず、その教訓と学校安全の思いをつなぎ、広く社会に向けて発信していくため、当時を振り返り、子どもたちにとって安心で安全な学校づくりを誓うものです。

「集い」に先立ち、奈良真行副校長は、人の命の大切さについて考えてほしいと全校児童に対して語りました。続いて、全学年で「安全科」の授業が



行われ、6年生の授業では「学校安全の継承と発展」をテーマに、学校安全に対する意識を広げていくために自分たちができることについて話し合いました。



アメリカンフットボール部ってこんなところ!!

今回の表紙に登場してもらったのはアメリカンフットボール部の学生たち。活動内容やおすすめポイントを聞いてみました!

私たち「DRAGONS」は、2024年度に念願の2部リーグへ昇格を果たしました。多くの部員が大学から競技を始め、初心者でも即戦力になっています。仲間と共に成長し、充実した大学生活を送りませんか? 大阪教育大学でお待ちしています!





01

学生が大阪府藤井寺保健所と協働で
シンボルマーク等を制作



03

「体育会熱中症予防講義、
性感染症講義」を開催



02

「令和7年度入学式」を
挙行



04

春の学園祭
「五月祭」を開催



やまお基金(大阪教育大学基金) へのご協力について

本学では財政基盤を長期的に支えるとともに、大学及び附属学校園などにおける学生等への支援、教育研究支援並びに国際交流や社会連携の推進等を図ることを目的に「やまお基金(大阪教育大学基金)」を設置しています。この基金を活用して、教育研究、国際交流、社会連携、教育の高度化、スポーツ・芸術の推進、キャンパス環境整備などの事業を行っています。これらの趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

一口
1000円

クレジットカード等によるインターネットでの
お手続きとなります

●基金の詳細は右のQRコード または 下のURLへ

[https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/
other/foundation/about.html](https://osaka-kyoiku.ac.jp/university/other/foundation/about.html)



●ご協力いただける場合は上記ページの

「大学基金お申込み」ボタンからお手続きください

> 大学基金お申込み

F-REGI 寄付支払い ※所得税等の控除の対象です。

https://kifu.f-regi.com/fc/contribute/osaka_kyoiku

アンケートに答えて 大教大オリジナルグッズをGET!



大教大ボールペン



大教大マフラータオル

今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。アンケート(QRコードを読み取ってご回答ください)にご協力いただいた方の中から、抽選で3名様に**大教大ボールペン&マフラータオルを一色ずつ(色は選べません)**進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、フォームにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

プレゼント応募締切

2025年8月31日(日)必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※重複での応募は無効とさせていただきます。



アンケートは
こちらから

「天遊」とは

「天遊」とは荘子の言葉で、人間の心の中に自然に備わっている余裕を表しています。キャンパス統合移転の記念碑に銘文として刻まれており、揮毫は故水嶋昌(山耀)本学名誉教授によるものです。「天遊」の読みからとった「TenYou」は、「十人十色、その中のあなた」というメッセージを込めています。

